



# よむぞう通信

No. 117

## しぶさわえいいち 「渋沢栄一」ってどんな人？

新一万円札の肖像画になる渋沢栄一。今年のNHKの大河ドラマ「青天を衝け」の主人公として生涯が描かれる予定です。渋沢栄一は約500の会社とかかわり、約600の社会公共事業の設立と国際交流に尽力しました。「日本資本主義の父」と称され、『論語と算盤』において「道徳経済合一説（企業の利益追求が道徳にかなない、公の利益にかなうことが結果として国を富まし、その企業を富ますこととなる）」という経済理念を説き、その考えは、今日の日本経済のあり方に通じるものとなっています。

### <渋沢栄一略歴>

- 1840 2月13日、現在の埼玉県深谷市に生まれる。
- 1863 尊王攘夷で高崎城乗っ取りなどを企てるが、計画を中止し京都に出奔。
- 1864 一橋慶喜に仕え、財政立て直しや兵制の組織化など手腕を発揮
- 1866 徳川慶喜が征夷大将軍となり、幕臣となる。
- 1867 パリ万博使節団の一員としてフランスへ出立。
- 1869 静岡藩に「商会所」設立。明治政府・大蔵省に出仕。
- 1870 官営富岡製糸場設置主任となる。
- 1871 紙幣頭となる。『立会略則』発刊。
- 1873 大蔵省を辞める。第一国立銀行開業・総監役。
- 1875 第一国立銀行頭取。商法講習所創立。その後、第一国立銀行を拠点に株式会社組織による企業の創設、育成に力を入れる。生涯で約500もの企業にかかわり、約600の社会公共事業に尽力した。
- 1890 貴族院議員に任ぜられる。
- 1911 勲一等に叙し瑞宝章を授与される。
- 1916 第一銀行の頭取等を辞め、実業界引退。その後教育・文化・社会事業に専念。
- 1931 11月11日永眠。(91歳)

参考：公益財団法人渋沢栄一記念財団 HP  
<https://www.shibusawa.or.jp/>

### <渋沢栄一に関する書籍>

- 「はじめての渋沢栄一」 ミネルヴァ書房
- 「ビジュアル図解日本資本主義の父 渋沢栄一の生涯」 宝島社
- 「渋沢栄一人物としごと」 岩崎書店
- 「お札に描かれる偉人たち」 講談社 他



## 新春イベント報告

### 中央図書館



1/5「初読本（本の貸出福袋）」「リサイクル本の配布」、1/9「図書館ボランティアによる人形劇」を行いました。毎年恒例となっている高校生の書道パフォーマンスは、今年は残念ながら中止となってしまいましたが、湖西高校・新居高校の書道部の皆さんが揮毫してくれた作品を「新春書道展」として展示しています（～2/5 新居図書館、2/6～2/19 新居地域センター、2/22～3/8 湖西市役所に巡回展示）。

### 新居図書館



1/6「本の福袋」「スクラッチくじ」「リサイクル本の配布」、1/10「子ども向け工作教室『紙コップでかざぐるまづくり』」を開催しました。参加した子どもたちは、自分の好きな色を塗ったり、お母さんやお父さんと一緒に描いたり、集中して作ってくれました。完成したかざぐるまは、歩いたり、その場で手を振ったりするだけで、よく回る作りになっています。うまく回すコツをつかむと、みんな笑顔で楽しんでいました。

### 中央図書館 今の特集

#### 学べる絵本 ～人物編～

- ・『杉原千蔵と命のビザ 自由への道』
- ・『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』
- ・『マララの物語』
- ・『ゴッホの星空』ほか



### 新居図書館 今の特集

#### おうちでゆっくり読むエッセイ

- ・『好日絵巻』
- ・『たべる生活』
- ・『棚からつぶ貝』
- ・『日曜日は青い蜥蜴』ほか



# 第164回 芥川賞・直木賞 発表！

## 【芥川賞】

👑『推し、燃ゆ』 宇佐見りん

- ・『母影(おもかげ)』 尾崎世界観
- ・『コンジュジ』 木崎みつ子
- ・『小隊』 砂川文次
- ・『旅する練習』 乗代雄介

## 【直木賞】

👑『心(うら)淋し川』 西條奈加

- ・『汚れた手をそこで拭かない』 芦沢央
- ・『八月の銀の雪』 伊与原新
- ・『オルタネート』 加藤シゲアキ
- ・『インビジブル』 坂上泉
- ・『アンダードッグス』 長浦京

※まだ図書になっていない作品もあります。  
(1/27 現在)

朗読グループ「はなしずく」による

## ＝ 大人のための朗読会 ＝



◆日時 2月26日(金) 14:00～15:00

◆場所 中央図書館2階 視聴覚室

◆内容

- ・「コオロギの宿」 浅川かよ子／著
- ・「猿若町月あかり」 藤沢周平／著
- ・「二番煎じ」 古典落語より

※事前申し込みは不要です。当日会場へお越しください



## 暦と暮らす

今年は2月3日が立春です。立春は、二十四節気(太陽の動きをもとに1年を24等分したもの)の一つで、この日を境に気温や天気が徐々に春に向かっていくといわれています。また、立春の前日である「節分」には、「季節を分ける」という意味があり、現在では立春の前日のみを指しますが、もともとは立夏・立秋・立冬の前日もそう呼んでいました。

さて、中央図書館では、昨年1年を通して1階ロビーのガラスケース内で「季節の移ろいを楽しむ二十四節気」と題した展示を行いました。今年は、二十四節気をさらに3つに分けた「七十二候」をテーマに、それぞれの季節に合わせた展示を行っていきます。月ごとに変わる展示を、ぜひ楽しんでくださいね。



▲昨年の「二十四節気」をテーマにした展示で飾った切り紙たちを一同に集めました

### ★暦に関する本

- ・『くらしを楽しむ七十二候』 広田千悦子／著
- ・『暦のはなし十二月』 内田 正男／著
- ・『暦の科学』 片山真人／著
- ・『季節のこよみ』 平野 恵理子／著
- ・『二十四節気のえほん』 西田めい／文

## 2月のカレンダー

■ = 休館日

中央図書館						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

新居図書館						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

西部図書室・北部図書コーナー						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

☎ 053-576-4351

開館時間 9:30～18:30

☎ 053-594-3155

開館時間 9:30～18:30

西部地域センター : ☎ 053-577-2867

北部多目的センター : ☎ 053-578-0760

開館時間 9:00～17:00